

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

ここ数年の低迷から脱却し49歳にして最前線に返り咲こうとしているキアラン・ファーロン騎手が、今月のこのコラムの主役である。

勝負の世界に生きる者の宿命として、浮き沈みと無縁ではないのが競馬。サークルの男たちだが、それにしても、この男ほど波乱万丈の人生を歩んでいる者は他に居なかろうというのが、キアラン・ファーロンだ。

腕が確かなことは、英國でリーディングの座に就くこと6回という、その事実を記すだけで充分に伝わることと思う。

英國では6月の第1土曜日がダービーデーで、その前日がオーケスというのが近年の開催パターンとなっているが、ファーロンは99年にラムルーマとオースでオーケスとダービーを連覇。04年にもウイジヤボードとノースライトで両競走を制覇。2つのクラシックの同一年制覇を2度やっている騎手は、英國競馬の長い歴史の中でもファーロンを含めて3人しかいないという、大記録を保持している。

これまで主戦契約を結んできた調教師の名を記せばヘンリー・セシル、マイケル・スタウト、エイダン・オブライエンと、見事なまでに大御所の名が並ぶ。こうした業界の重鎮たちと、しつかりとした信頼関係を築くことが出来るバーソナリティも、ファーロンは持ち合わせているのだ。それにも関わらず、である。この人の履

歴には驚くほどに多彩なトラブルの数々が並ぶ。

そもそも、ファーロンの名が最初にマスコミの見出しじゃたのは、94年9月に起

こした暴行事件だった。進路を妨害されたとして激昂したファーロンが、入線後に邪魔した騎手を馬の上から引きずり下ろすという暴挙に出たのである。2人のアイツは検量室でも続き、相手の顔に拳を見舞つて鼻の骨を折ったファーロンは、6か月の騎乗停止処分を受けることになった。

10年3月には逆に、1番人気で大敗した馬の馬主からレース後、「お前の馬に邪魔されたから負けた」と因縁を付けられ、殴られるという事件に巻き込まれた。殴つた馬主は、3か月の資格停止処分を受けている。

99年8月、主戦契約を結んでいたヘンリー・セシル調教師から、突如としてケビンを申し渡された時、噂された解雇の理由は、ファーロンとセシル夫人の不倫だった。

自身5度目のリーディングを獲得した02年のシーザン末には、アルコール依存症と診断され、1カ月にわたってリハビリ施設に入院する破目に陥っている。

04年3月、ゴシップ紙に八百長への関与を書き立てられ、統括団体が警察の協力を仰いで調査に乗り出す騒ぎとなつた。それでも、ファーロンは持ち合はせているのだ。年7月に再び、ブックメーカーを舞台と

した情報漏えい疑惑に巻き込まれ、裁判で証拠不十分により無罪を勝ち取った07年12月まで、英國での騎乗を差し止められている。

更に、06年7月に仏国(シャンティイ)での騎乗後に行なわれたドーピング検査で、禁止薬物の使用が見つかり6か月の騎乗停止。07年8月にも仏国(ドーヴィル)での騎乗後にまたもドーピングに引っ掛けられ、再犯ということで18カ月の騎乗停止処分を受けている。

騎乗停止明けはフリーランスとして騎乗していたが、当たり前のことをながら成績は奮わず、「もはや終わった」と見られたのがファーロンの騎手生命だった。

ところが今年の春、ドバイで「ドルフィン」の調教を手伝うようになり、陣営の信頼を得て実戦での騎乗も増加。3月のスルーパーサタデーでは、モハメド殿下の主戦厩舎サイード・ビン・スルールの管理馬プリンスピショップに騎乗してG1アル・マクトウームチャレンジ・ラウンド3に優勝。

そして、ドバイ人馬主サイード・マナド氏所有のナイトオブサンダーでG1英二千ギニーを制した2日後の5月5日、なんとサイード・ビン・スルール厩舎の主戦騎手に指名され、新たに契約を結んだのである。キアラン・ファーロンが今度こそ、モハメド殿下の主戦という大役をつがなく務めることができるか。様々な意味で注目を集めている。